

蔵王山安善寺

『自利利他』

泰忍 弘



緑豊かな境内

安善寺の境内にはたくさん
の木々や植物があり、樹葉の
変化や折々に咲く花などで、
明らかな四季の移り変わりを
楽しむことができます。庭に
は雀やオナガ、ヒヨドリなど

様々な野鳥も飛び回り、夏に
はうるさいくらいにセミが鳴
き街中ではありますが、自然
の豊かさを感じることができ
ます。鳥といえば、安善寺に
は毎年境内に巣を作るつがい

のガラスがいます。毎年樺の
木や銀杏の木など場所を変えて
巣作りをするのですが、今年
は玄関正面の樺の木に巣を作
り、巣の中の様子がベランダ
からよく見えます。六月初旬
にはガラスの赤ちゃんが生ま
れ、口を開けて親鳥から餌を
欲しがる様子も何度か見るこ
とができました。

様々な生き物が境内にいる
ことは大変ありがたいことな
のですが、厄介な存在もいま
す。それは蜂です。特にスズ
メバチは数年に一回は境内の
どこかに巣をつくり、駆除を
お願いすることもしばしばで
す。スズメバチ以外にもミツ
バチで悩まされることもあり
ます。ミツバチ自体に害はな
く、通常巣があっても駆除す
ることはありません。ただ、
巣を作る場所によります。ミ
ツバチはよく墓地の墓石の中
に巣作りをするのです。お墓

の隙間から出入りして中の空
洞部分に営巣するのですが、
さすがにそのままにするわけ
にはいかず、駆除をお願いし
たこともありました。

日本ミツバチは個体数も
減ってきているようで、駆除
するのは忍びなく、何か良い
方法は無いかと思っていたと
ころ、ある養蜂家の方に出会
いました。

その方は、ミツバチを護る
活動をされていて、その方の
提案で五月の初旬に境内二か
所にお手製の巣箱を設置して
いただきました。すると、ほ
んの一週間ほどで巣箱二か所
ともミツバチが出入りするよ
うになりました。最初に気づ
いた時は嬉しくてしばらく出
入りする蜂を眺めていました。
その後、数週間で引越したの
かミツバチの出入りが
無くなりましたが、今のところ
墓地に移った様子はなく、

◆編集・発行人◆
近藤真弘
〒940-0052
長岡市神田町1丁目4番10
TEL.0258-32-2811
◆スタッフ◆
小林国二・高橋 潔・屋代 健
太田匡哉・黒田勇治・山内芳次
近藤龍弘・近藤マリ子・近藤久美子
印刷・楠中央印刷



ホームページ
Instagram

ご家族の皆さままでご覧下さい



何よりも誘引してミツバチを
護る手段が分かったことが大
変ありがたかったです。
仏教の教えに「自利利他」
という教えがあります。「自利」
とは自らの悟りのために修行
し努力することで、「利他」と
は他の人を救済するために尽
くすことです。この二つを共
に行うこと、つまり自らのた
めになることと、他者のため
になることをともに実践する
ことが「自利利他」の教えです。
日本ミツバチは自らが生き
るために蜜を集めます。そし
てその営みは花の受粉を助け、
多くの実りを生み出します。
まさに「自利利他」の姿です。
そしてこの行いはまさに共
存共生の姿でもあります。冒
頭のような自然の豊かさがい
つまでも続くよう自利利他、
共存共生を心がけて日々を過
ごしていけたらと思います。

【特集①】

総代就任のご挨拶



玉垣 哲郎

この度、安善寺ご住職様からお声がかかり、檀信徒総代に就任させて頂きました玉垣と申します。

以前は与板町、それから長岡、そして現在は十日町に居を構えております。

安善寺様には、長岡にいたころから大変お世話になっております。

就任にあたり、ご挨拶・自己紹介をさせていただきます。

安善寺様とは江戸時代からその後七代に渡りお付き合ひさせて頂いておりました。

昔、商売が順調だったころ、今の本堂にある天蓋を寄進させて頂いていただきました。

私も父の一周忌にあたり、木魚を寄進させていただきました。

安善寺様のお役に立てていることを大変嬉しく思っております。



御寄進の木魚

今後も商売に力を注ぎ頑張っていきたいと思っております。

私の経営する会社を紹介させて頂きます。

「妻有そば」の製造販売をしております、株式会社玉垣製麺所でございます。

先々代が会社を初め、私が三代目となり、今年七十四期を迎えました。

初めは何事も上手くいかず、困難続きだったと聞いております。私が子供のころは、隣家に米を借りに行ったり、天井を見上げれば星が見えるボロボロの家に住んでいました。母が「いつかきつと、なにくそ」と言っていて、根性で頑張っていたのを思い出します。父は職人気質で、いつも麵作りに励み、改良・研究を重ねておりました。

皆様にご愛顧いただいている「妻有そば」は父が苦勞の上作り上げたそばです。

そして、「妻有そば」と名付けたのは母です。

二人の努力の賜物が現在も地元で愛される商品となりました。

その後何とか順調に製品が売れ始め、工場を拡大し、機械設備も整え、現在の場に会社を構えました。

お陰様で新潟県内のスーパーには殆ど置かせていただいております。

特に十日町ではお土産品として喜ばれ、上位に選ばれております。

数年前のコロナ禍においては、本当に苦勞しました。一時は売り上げも落ち、もうダメかと思う日々もありました。

社員二十五名、この社員たちが「コロナに負けるもんか」といって、知恵を出し合い、一生懸命に会社を支えてくれました。心強い二十五名です。

私の宝物と思っております。

三年前に長男が入社し、SNS関係に力を入れていきます。時代は変わったな〜と実感しています。今の時代の手法で、私にはついていけないものとなりました。

今後も真面目に麵づくりに励み、味を落とさず、皆様に喜ばれる製品づくりに邁進する所存でございます。

私、恐れながら若輩者ではございますが、檀信徒総代を皆様のお力と・ご指導を賜りながら誠心誠意努めさせていただきます。

どうぞ宜しくお願い致します。



玉垣製麺所の妻有そば



越後四十八地蔵霊場、動く

真言宗豊山派
徳聖寺 中村 賢識

徳聖寺のお地蔵さま

長岡市上田町の徳聖寺住職を務めております、中村賢識と申します。真弘御住職には、長岡市仏教会や仏教者ビハラの会などを通じ、先代住職のころより大変お世話になっております。

この度は、「越後四十八地蔵霊場」について執筆の機会をいただきまして、僣越ながら以下にまとめさせていただきます。

さて、「霊場」というと「四国八十八ヶ所霊場」や「西国

三十三所観音霊場」が有名ですが、このほかにも国内には数多くの霊場がございます。

新潟県内においても、現在に伝わる代表的な霊場として、越後三十三観音霊場、越後新四国八十八ヶ所霊場、佐渡八十八ヶ所霊場などがございます。

一方で、現在は広く伝わっていない霊場として、越後四十八地蔵霊場、越後十八阿弥陀仏霊場、越後百八ヶ所三仏霊場などがございます。

越後四十八地蔵霊場は、元治元（一八六四）年に会津の紀興之によつて編纂された『越後土産初編』に掲載されている霊場です。また、明治期にまとめられた『温古の葉』（越後地誌風俗全書）を見ますと、地蔵霊場の札所番号が記された寺院が掲載されています。

このことから、江戸末期から明治期にかけて、越後の霊場として広く認知されていたことがうかがえます。

ルートをたどりますと、村上城跡から徒歩十五分ほどの場所に位置する一番札所・十輪寺を出発し、越後平野を経て長岡へと入ってきます。当山の徳聖寺は、十五番札所となつております。

長岡からは南魚沼へと南下し、山を越えて上越に入ると、日本海側を巡り、最後の四十八番札所である胎内市桃崎浜の龍福寺へと、村上城下町に戻ってくる壮大な巡礼

ルートです。

また、四十八地蔵を巡るルートが記載された『越後三佛巡拝禮記』には、越後十八阿弥陀仏、越後三十三観音霊場、番外観音札所九ヶ所を合わせた計百八ヶ所の寺院のほか、要所所で有名な神社や寺院が記載されています。現代でいう「観光ガイドブック」のような役割を果たしていたのでしよう。

しかし残念ながら、越後四十八地蔵と越後十八阿弥陀仏はいつしか伝承が途絶え、行方のわからなくなつてしまつたお地蔵さまもございませう。一方で、その由緒はわからなくなつていても、現在も道端に佇み、地域を守り続けておられるお地蔵さまもいらつしやいます。

そこでこの度、お地蔵さまを今に伝える寺院の有志で、越後四十八地蔵尊をこれからも守り伝えるため、まずは皆さまに知っていただくこと「のぼり旗」を制作いたしました。今は便利な時代で、まだ直接お会いしたことがない方同士でグループLINEを作り、

色々と相談を重ねてまいりました。まだ会としての実態を持たず、お会いしたこともない人間から、のぼり旗の製作協力金をお願いしている状態でしたので、文字通り「詐欺」のようでもありました（笑）、皆さまの温かい善意により、無事に完成へと至りました。これから連絡の取れる寺院の皆さまにお配りし、境内にのぼり旗を掲揚していただくよう、お願いを進めているところです。

地蔵菩薩は、お釈迦さまが亡くなられてから五十六億七千万年後に弥勒菩薩が現れて人々を救うまでの間、この「無仏の世界」で私たちを救ってくださいる仏さまとされています。また現代では、道端で動かず見守っているお姿から、動かない人のことを「地蔵」と例えたりもします。そんな親しみのあるお地蔵さまが「動く」というのもおかしな話ですが、「地蔵霊場会」としてお地蔵さまが現代に動き始めることを切に願っております。

【特集③】

『長岡の空襲』

関川 タエ

関川様の原稿に寄せて

長岡空襲から今年で八十一年が経ちます。五月に九十五歳で逝去された関川タエ様は千手の自宅で小学生の時に空襲の被害に遭いました。年々戦争を知る世代が少なくなる中、決して忘れてはいけない戦争の悲惨さ恐ろしさを次世代に伝えるため、体験を手記にまとめられました。当寺の状況やご本人の想いをより克明にお伝えしたく、ご家族の御許可のもと、原文のまま掲載させていただきます。

戦争を経験したのではない私たちには想像もできない経験の中、最後に生命の大切さを訴える、まさに生きた教えを皆様にお読みいただきたく願います。

安善寺住職合掌

—空襲の夜—

昭和二十年八月一日、その晩はとてもむし暑い日でした。私は日暮れ頃までじやがいの配給の手伝いをして、兄や母、姉、弟とおそい夕食を食べ終わり、ほっと一息入っていた時でした。戦争当時は食べる物は極く限られていたので、ごはんの替りにじやがいもを食べていましたし、それも一人にこれくらいと割当てられて町内の班長さんを通じて配られていました。

九時過ぎ、いつものように警戒警報の放送がラジオを通じて聞こえてきました。すぐに電燈のまわりに黒い布をたらしたり、窓にござや黒いカーテンをおろして、家の中の光が外にもれないようにしました。これは電燈の光がつかれていると、ここに建物があるということがわかり、敵の飛行機の爆撃のまよになるからです。家の中がまっ暗になったと思うやいなや、ラジ

オの放送は続いて空襲警報をけたたましく知らせました。もう、私達の頭の上に敵の飛行機B29が来ているということです。

(今晩はいつもと違うぞ)と思つた瞬間に、ドカンドカんと音がして外が明るくなりました。兄は急いで二階の屋根のぼり様子を見に行きました。私は玄関の戸をあけて外に出てみると、東の方が火の手で赤くなっていました。

急いで家の中に戻り、それまで蚊帳の中で暑さのためパツツ一枚で寝ていた小学校二年生の弟を起こし、ふだんから用意してある葉やお米や身の回りの必要な物を入れたリュックサックを背負って、弟の手をひき玄関を出しました。母や姉と一緒に逃げようとしたのですが、母は貯金通帳や保険の証書などの大事なものをに入れておく重要袋を忘れたので取りに行くから、一足先に逃げるようにといって家の中に引き返しました。

こうしている間にも、一、三十メートル先の家に焼夷弾が落ちて新しい炎が立ち上り

燃え上がっていきます。ふだんから逃げる方向は東の悠久山の方へ行こうと申し合わせていたのですが、その東の方でもう真赤に燃え上がっています。西の方はまだ遠くに火の手が見えるだけです。「かあちゃん、にいちゃん、西の方へ逃げるよ!」と大声で叫んだ後、姉と弟と私の三人は必死になって走りました。大通りの雁木の中に入った時、手を引いていた弟を見るとパツツ一枚のはだかのまま、足もはだしです。この頃は戦争のため、食べ物だけでなく、着る物や履き物も満足なものはなく、今のように靴やズックなどはなくて下駄を履いていました。弟はあわてたため、その下駄も履いて来なかったのです。そこで雁木の片隅で、弟のリュックの中からシャツとズボンを出して着せました。私も下駄を履かずに足袋を二足履いていたのでそれを一足ぬいで、弟に履かせました。こうしている間にも向い

側の家にまた焼夷弾が落ち新しい火の手が上がります。「伏せて!」と弟に言いながら、

防空頭巾をおさえ、地面にうずくまったのですが、まごまごしていたら逃げる道も炎でふさがれてしまいます。母や兄の事も心配しながら、姉と弟の三人で、長生橋通りを懸命に走りました。幸いのことにも両側の家は焼夷弾の直撃を受けて燃え出しているところもありましたが、通りが広いせいか道はまだ大丈夫です。弟は時々、立ち止まり「かあちゃん、にいちゃん、は…」と言います。私たち三人は後をふりかえりふりかえり走りました。

大勢の人たちが家族手を引き合つて雁木の中を走っています。みんな信濃川の土手の方へ逃げるのでしょうか。運のいいことに、長生橋に近づいた頃、母も兄も追いついて家族五人が揃いました。長生橋の東詰に近づいた時はほっとしました。

—家族の安否を気遣う—

あとからあとから大勢の人が逃げてきます。家族がばらばらになったのでしょうか、家族の名前をお互いに呼び合

いさがし合う声があつちからもこつちからも聞こえました。長生橋の橋のたもと土手に腰をおろし、次々と燃えていく長岡の街を眺めながら、みんな父の行方へを心配しました。父は夕食後すぐに四郎丸の親類に用があつて出かけていたのです。(おとうさんはどうしたろうか。無事だろうか。悠久山の方へ逃げたのだるか)心配してもどうすることもできませんでした。

―長岡の町燃える―

次々に落とされる焼夷弾のため町中全部が燃えてその火の勢いで町の方を見ていると顔も体も熱くなってきました。我慢しきれなくなると水辺近くまでおると川風で少しは涼しくなりました。また土手にながって町を見ると家々の屋根はくずれ落ち、ところどころに建っている鉄筋コンクリートや石造りの建物だけが不気味に黒々としています。そして、最後に背の高い大木が燃える時は、丁度巨大な線香花火のように木の葉や梢にパチパチと火がついたかと思

うと、木全体が真赤に輝き、まるで木の形の仕掛花火のように見えました。こうして一晚中燃え盛る長岡の町を見ながら過ごしました。こんな大火事の中でもできたら私の家は焼け残ってくれますように、おとうさんが無事でいますようにと一心に祈っていました。夜明け近くなつて、同じ町内のおじさんとおばさんがよろしなが土手を歩いていました。近寄ってみるとおじさんの鼻の頭は赤く焼けたたれて、口の近くまでたれさがつていました。ひどい火傷です。土蔵の戸を閉めたりして逃げおくれ、火の中をやつと思いで逃げて土手にたどり着いたのだそうです。私の救急袋の中には火傷に効くハリバ軟膏があつたのでつけてやろうとしましたが、あまりにも気味の悪い顔でつけてやれず、母に代わつてしてもらいました。このおじさんはこのひどい火傷のため、四日後に亡くなられたということでした。

―長い夜が明ける―

熱くて長い夜が明けまし

た。一晚中燃え盛った火は長岡の町の殆どを焼き尽くし、炎は一応おさまりました。兄は父や家のことが心配だからすぐに焼け跡に戻つてみると言いました。地下足袋を履いていたから少しくらい道が熱くても大丈夫だというのです。足袋や下駄の私たちはまだ熱い町の中へは到底行くこととはできません。また、私の救急袋の中にはお米一升が入っていました。長生橋を渡つた川西に知り合いの農家があるからこのお米をごはん炊いてもらい、後で焼け跡へ持つていくことを打ち合わせ、兄と私たち四人は別れました。

農家で一休みさせてもらい、昼過ぎてから、おにぎりをたくさん持つて焼け跡に向かいました。途中長生橋から五十メートル近く離れた路上に十五、六才くらいの男か女かわからない半焦げの人がうつ伏せになって倒れていました。逃げおくれ力尽きてこの場所まで焼け死んでしまったのでしょうか。もう少しで土手だというのに可哀想に。その

場で手を合わせて通り過ぎました。

店が並んでいたあの賑やかな長生橋通りも一軒として残っている家はなく、また遠く四、五キロも離れている北長岡の工場も見通せるほどの焼け野原になっていました。あんなに自分の家だけは残つてほしいと願っていたことも、もう望みはないと覚悟して我家の焼け跡に戻りました。

―無事だった父―

そこには父と兄の二人が焼け崩れたトタン板などを片付けていました。

「おとうさんぶじだったの。よかった」とみんなが父の周りにかけ寄りました。父は空襲が始まった直後、家族や家のことが心配で途中まで引き返したけれど、次々と落とされる焼夷弾と焼け落ちる材木などで道を歩くことができず、町の中を流れている柿川の水に腰までつかり、火や熱さをさけて無事だったのだそうです。そして、火が静まった朝方、我家の焼け跡に戻り早速整理に取り掛かっていたの

です。ふだんから負けん気のおつかないがみがみおやじの父が今まで以上に力強く感じられました。六軒あつた貸家も全部焼け、家も財産も無くしたけれど、家族六人誰一人として怪我した者もなく、無事だったことを心から喜び合いました。

―焼け跡から立ち上がる―

こうして焼け跡の整理から立ち上がる生活が始まりました。そんなに広くもない我家の跡に、六角柱の杭のようなものが何本も突きささつていたのです。隣近所のみなさんで三十六本も集められました。裏庭の所にはこの三十六本の筒を覆っていた厚い大きな板金が落ちていました。

空襲から数日後、焼け跡の整理をしている間にも敵の飛行機が数回やってきました。もう燃やすものも何もない長岡の町なので、焼夷弾の心配はありませんが、今度は機銃操射をされるということでした。機銃操射というのは、低空飛行をして、機銃で人を射殺するというのです。隠れ

る物陰一つない焼け跡で飛行機の爆音を聞く度に二百メートル余りも離れた神谷病院の鉄筋コンクリートの建物まで身を隠すために走りました。

昼は焼け跡の整理で働き、夜は焼けなかった愛宕町の親類に泊めてもらいに行きました。三キロほどの道のりを疲れた体を引きずっていくと焼けなかった東神田辺りの家の前では楽しそうに夕涼みをしている人たちがいました。うちだつて戦災にあわなかったら、今頃は楽々と休むことができるだろうにと羨ましく思いました。

―バラック小屋造り―

四、五日経った頃だつたでしょう。父と兄は焼跡にバラック小屋を建てました。裏庭にある大きな杏の木の幹だけ黒く焼け残っていました。焼け跡から使えそうなトタン板を集めてその杏の木の幹を支えにして三方と屋根をふさぎ、出入りする一面だけは知り合いの農家からゴザをもらってきてぶらさげ、戸の替りにしました。焼け跡に一番

早く建てられたバラック小屋でした。でも畳もなく、土の上にわたらばを敷き、その上にゴザを敷いた六畳ほどの広さの小屋でした。家族全員が泊まるわけにもいきません。

父と兄はほぼ毎晩、私たち女三人と弟は希望者が泊まることにしました。私も二、三回泊まってみました。夏とはいえ掛け物がいらないうけではありません。下半身はもらってきた米俵の中に突っ込み、上半身は蚊にさされないため長袖の衣服を着て、顔は風呂敷や手拭いなどで覆って寝るのです。こんな焼け跡に蚊だけはぶんぶんやってくるのです。蚊の生命力の強いのにびっくりしました。

日が暮れて、あたりが真っ暗になると、あちこちの焼け残った土蔵が急に真っ赤に火を噴いて焼けくずれていくのを何度も見ました。これは、一旦焼け残ったものの、急に扉を開いたために、外からの酸素が土蔵の中の熱気に作用して燃え上がらせるのだそうです。あの土蔵の中には大事な物がしまわれていただろう

にと、他の家の土蔵でも大変もつたいたなく思いました。こんなふうにして十日あまり過ぎた後、焼け跡もほぼ整理されたので、女、子供だけは加茂市にあった母の実家に世話になることにしました。そして終戦を迎えました。

八月一日の長岡空襲によって私は未だかつて経験したことのないいろいろな事を経験しました。しかし、戦争だけはもうごめんです。戦争は二度と繰り返してはいけな

いと思います。平和の時代に生まれ育っている皆さんにはこれだけの話では戦争の悲惨さ、むごたらしさを充分解つてはいただけ

たかどうかわかりませんが、私たちの郷土長岡は百年間に二回もの戦いのために焦土となり、そこから雄々しく立ち上がって、現在の長岡を再興してきたのです。

現在の平和の時代に生きて

「長岡戦災資料館」 移転リニューアルオープン

「長岡戦災資料館」が5月29日に移転オープンしました。

資料館は長岡空襲の惨禍を記録・保存し、伝えていくものです。今回のリニューアルにより、展示規模が拡大し、より多くの戦災資料や遺影、名簿が常設展示されています。

また展示では体験型の視覚的なマップやデジタルコンテンツが充実し、空襲の様子だけでなく、戦争の歴史や戦時下の暮らし、空襲から復興につなげてきた市民の声を伝えていきます。

資料館では、戦争を知らない次世代に空襲の現実と平和の尊さを伝えるための平和学習の資料も用意されています。

「取材協力 長岡戦災資料館」

長岡戦災資料館

●住所

長岡市坂之上町3丁目1番地20

●電話

0258-3613269

●入館無料



2階 「資料展示室」



1階 「祈りの間」 空襲での犠牲者遺影

「長岡市花まつり

第一〇〇回記念大会」を終えて

今年の五月五日に長岡市仏教会が主催する花まつり第一〇〇回記念大会が開催されました。

今回は一〇〇回記念大会でしたので準備期間も通常より長く昨年九月から動き始め、10回を超える打ち合わせ会議を重ね、例年の大手通り開催ではなくアオーレ長岡アリーナで開催することができました。内容も「花まつり法要」「稚児子育て法要」に加え「園児太鼓演奏」「立正佼成会創作踊り」「子育てトークイベント」「真言宗越後仏教青年会和太鼓」



「記念講演―億特攻への道―」といった舞台での催しのほかマルシェエリアには40店舗の出店やナカドマエリアではキッチンカーも出店し、会場は大いに盛り上がりました。さらに、お練りの行列は僧侶、檀信徒、お稚児さん、立正佼成会、ボーイスカウト、ガールスカウトなど総勢二〇〇名程の大行列でナカドマから大手通、アリーナまで多くの方に見守られる中、練り歩きすることができ、大変ありがたかったです。

大正十一年に始まった長岡市花まつりは戦時中とコロナ禍で中止を余儀なくされましたが、今回無事に一〇〇回の記念大会を盛会裡に終えることができました。これはひとえに仏教会の先人たちから繋がる超宗派での協力的体制、さらに立正佼成会皆様、関連業者皆様、協賛をいただいた皆様、仏教会の想いを具現化するために関わっていただいたすべての皆様のおかげです。そして私自身今回、仏教会事務局としてこの記念すべき大会に微力ながらお手伝いさせていただいたことを大変うれしく思います。今後も花まつりが長岡市の大切な催しとして長く続いていくことを切に願います。

安善寺よろず掲示板

『寺行事予定』

- 八月 一日 盆参(新盆)
- 十三日 盂蘭盆会法要(墓施食)
- 十四日 新盆棚経
- 十五日 お盆供養法要(午前午後)
- 十七日 墓地大清掃
- 九月十八日 吒枳尼尊天秋季大祭典
- 秋季彼岸会
- 九月二十日 入り歎佛法要
- 二十三日 中日施食法要
- 二十六日 明け歎佛法要
- 慈雲塔供養
- 十二月一、三、五、七日 臘八撮心
- 八日 成道会
- 九日 断臂撮心

*時間等の詳細はホームページをご覧ください
お尋ねください
*新盆の方には改めて法要と棚経のご連絡をいたします

お知らせ

今号より『季刊蔵王山安善寺』の発刊を年四回から年二回(一月、七月)とさせていただきます。

安善寺 庭園型樹木葬 『翠緑の小径』

- お盆に樹木葬墓地で御法要
- お盆に樹木葬墓地で御法要
- お盆に樹木葬墓地で御法要
- お盆に樹木葬墓地で御法要

【お問合せ】株式会社 放光
フリーダイヤル **0120-811-112**

安善寺 樹木葬墓地ご案内ページ
<https://anzenji-jyumokusou.com/>



仏さまのおすそわけ 数珠つなぎフードパントリー

～誰ひとりとり残されない世の中に！お寺を提供の場へ～

食材や日用品の提供にご協力ください！！



* 詳細はお寺にお尋ねください *

協力：新潟県フードバンク連絡協議



真人くん 悠真くん

それぞれ充実した学生生活で

嬉しいなにゃん！



庭の木々が生い繁つてくるとともに様々な種類の鳥たちが遊びに来ています。中でも珍しいのはかつこうで、朝の5時からカッコウカッコウと美声を近所中に披露しています。

真人くんが4月から高校生になり、毎朝お弁当を作る久美さんにとってはいよいよ目覚まし時計になっていくようです。陸上部に入った真人くんは朝練に放課後練習にと毎日大忙し。その間にもテストや体育祭準備などがありクタクタになって帰ってきますが、新しい友達や優しい先輩方に囲まれて高校生活は最高に楽しいようです。

一方、悠真君は中学2年生になり、久美さんからの受験プレッシャーを浴びるも軽くかわし、休みの日には体育館へ行き友達と卓球三昧。中学からなるとなく入った卓球部だったので今や夜練に行くほど没頭して頑張っています。家での会話

も卓球の話が多くなるのですが

全く経験がない住職や久美さんにとつてはチンプンカンプンなようで、とりあえず頷いている状態です(笑)。

ところで皆さんはご存知ですか？住職がサッカー少年

だったことを！中学では市の選抜に選ばれるほど上手だったんです！今の姿からは想像もできませんが：私とビビが逃げ出した時に追いかけてくる脚力と俊敏さを見ているとかつての栄光が見えるよ



そろそろ長毛が厳しい時期に...

うです。

今年はサッカーワールドカップイヤー、熱くなった想いが昔のサッカー魂に火をつけダイエツトに向かえばいいのにと願うばかりです。

私とビビはというテレビの中で動く選手にバタバタと手を出して観覧の邪魔ばかり。この練習のおかげで今年の夏はいろんな虫を捕まえられそうです。また久美さんの叫び声が響き渡るかなあ：楽しみにしててくれにゃん！

編集 雑感

この原稿を執筆している6月はサッカーのワールドカップが開催中。初戦のオランダ戦に2対2で引き分けて、6月21日にチュニジアとの試合です。四年に一度という本番に緊張せずむしろ全力を出せるプロ選手のメンタルにいつも感動します。7月20日に決勝戦がありそこに日本チームが残つてくれることを私も願いながら大会を楽しんで執筆しておりますが、三苦選手が出場したカタール大会からもう四年間も経ったということに驚きます。

今回の編集会議でAIについての話が出ました。AIを使うと文章を考えてくれる、頼んだ絵を描

いてくれる、夜でもディスプレイに付き合ってくれる、少し疲れたら優しい言葉をかけてくれて慰めてくれます。パソコンやスマホの中にある相談役と言える存在になっていくのではないのでしょうか。仕事のメールの返信も要件を伝えると下書きを作ってくれるなど私も使っています。

2023年にソフトバンクの孫正義さんが10年以内にAIが人類叡智総和の10倍を超える知識量を持つようになる」と講演していましたが、そこから3年でここまで生活にAIが活用されるようになってくるとは想像できませんでした(孫正義AGIで検索すると出てきます)。委員の皆さんで知識で人を超えたとしても人を癒すのはAIより人間だという話になりました。文章もAIに頼めばすぐに考えてくれますが、その人らしい文章は自分で書く必要があります。自分で考えたからその人の味が出るのだと思います。

AIは仕事や生活を支えるうえでは大変頼もしいパートナーになってくれると思いますが、人の心を支えるのはやはり人です。AIが進んだとしても人と人との繋いでくださる安善寺様とのご縁を大切に、時代に合わせて変化しながら皆様と繋がっていかれたら幸いです。

(天田 匡哉)

お便り原稿用紙

皆様からの原稿をお待ちしております。

原稿の例

- 思い出話／ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
- 私に言わせて／家事や子育てのお話、身近な出来事など。
- 教えてください／仏事のしきたりや疑問（編集部や住職がお答えします）など。

FAX 0258-32-2870

〈原稿送付先〉メール info@anzenji-nagaoka.com

HP にも申込フォームがあります